

有機農業実践講座～柑橘栽培～ 開催にあたって

柑橘の有機栽培実践講座は、第1回を佐賀県鹿島市で、第2回を愛媛県八幡浜市で開催いたしました。そして今回、第3回目を和歌山県有田市で開催いたします。

難しいと言われてきた柑橘の有機栽培は、1～2haの平均的な栽培規模から大規模な26haの取り組みまで実践され、安定収量、外観の良さおよび販路を確保し、経営の安定を確立した人たちが各地にいます。

いっぽう、有機栽培に関心を持った多くの柑橘栽培者がいますが、同時に多くの疑問ももっています。病虫害の発生にどう対応したら良いのか？ 有機栽培に切り替えた場合、収量はどの程度見込めばよいのか？ 有機栽培をすれば味が良くなると言われていたが、本当だろうか？ 雑草を刈るのは大変で、我が家の労力では無理ではないか？ 外観の悪い果物なんて、商品として売れるのだろうか？ などなど。

昨年までの講座では、これらの疑問に基調報告やパネルディスカッションをとおして、実践者が率直に答えるという形式で開催し、成功裏に回を重ねてきました。

また、実践している有機栽培にもいろいろなタイプがあることもわかりました。堆肥投入と許容された資材を使用した有機栽培のタイプを主としながらも、作物残渣以外何も入れない、使わないタイプ、土壌や作物を分析し、成分の過不足の調整やIPM先端技術などを駆使したタイプがあり、その中間的なタイプもあります。いずれも有機JAS認証を取得して販売され、経営も軌道に乗っている事例です。現時点で栽培のタイプに優劣をつけたり、統一したりすることは無理であり、時期尚早です。多くの実践者の努力により、有機栽培を実践したいと思う生産者にとって選択肢が広がっていることを、まず評価すべきでしょう。

今回の講座では、初めて基調講演を設けました。日本では今、国家プロジェクトで、植物と微生物の関係、言い換えれば作物と土壌微生物との関係を中心にチームを組んで徹底した研究が始められて4年目を迎えているそうです。その研究成果も公表され始め、土壌微生物の生態や働きも明らかにされつつあります。従来は土1g中に1億単位で微生物が生息していると言われていましたが、最近の研究では100億単位で棲んでいることがわかってきました。その土壌微生物の働きに関する研究の第一人者である佐賀大学農学部土壌微生物学研究室の染谷孝教授を講師にお招きしています。有機農業を支える技術の柱、土壌微生物の生態や働きについての最新の研究成果も紹介いただけるものと期待しております。

事例発表、パネルディスカッションでの学びもおして、参加者の皆様の有機農業を考える視点、選択肢の多様化にも大いに役立つものと思います。

興味ある方は、だれでも参加できる講座です。柑橘生産者はもちろん、普及指導員や行政担当者、販売、流通、加工業者などの皆様にも参考になるとともに、情報交流会も含めて活発な意見交換の場となることを期待します。

最後に、開催にあたって地元関係者をはじめご尽力いただいた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

平成26年9月15日
NPO法人有機農業参入促進協議会
副代表理事 鶴田 志郎